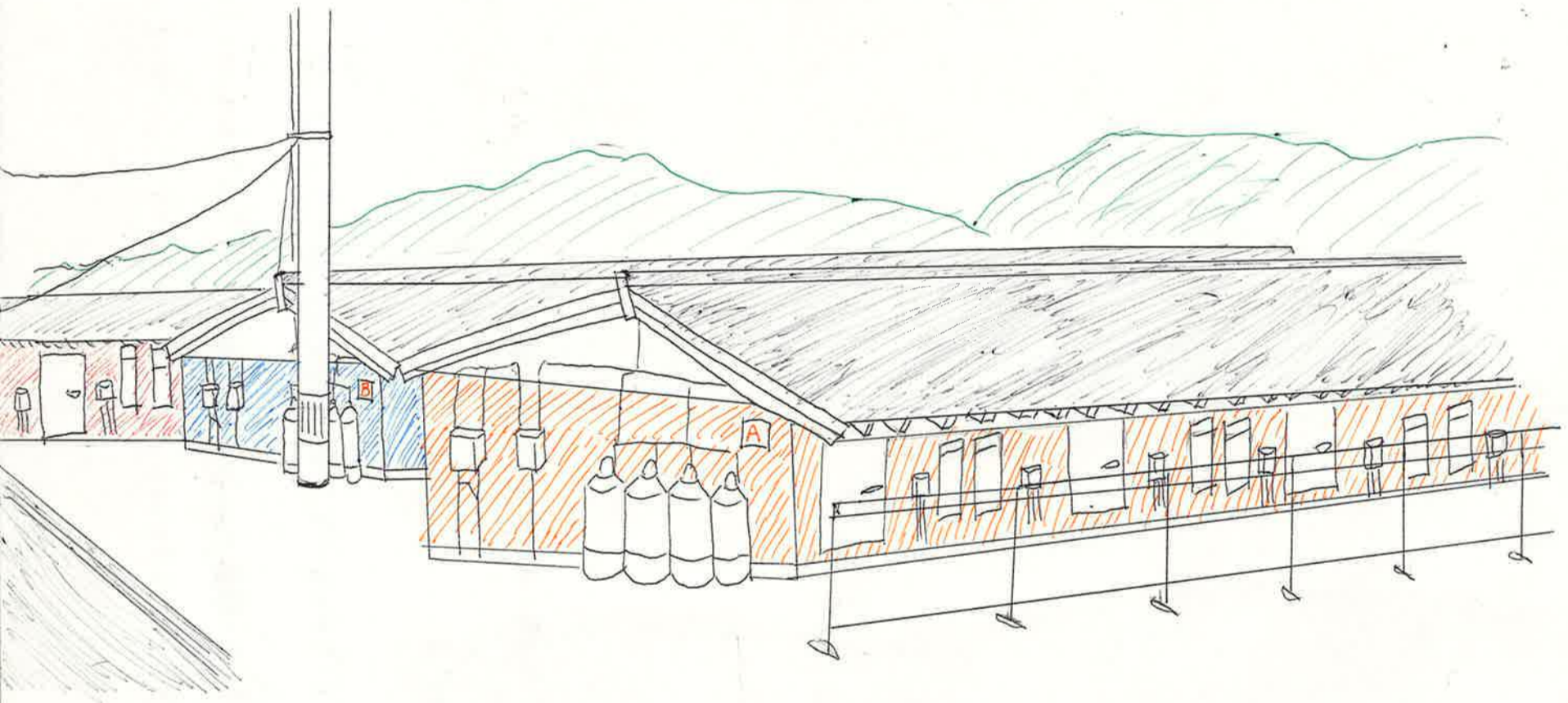


仮設住宅について、考えてみた。

東日本大震災後に東北地方日本海側に建てられた仮設住宅がどんな風なのか気になって、その写真を見てみると、どこか殺風景な感じがした。壁も屋根も全部が統一されているからだと思う。このごろテレビ番組である建築家が20世紀あたりに設計したという住宅が取り上げられていた。その人が考えた住宅の一つに、ベルリンに働きに来た労働者達の生活向上のために作られた住宅群があった。

その家々は、大量生産のために設計は統一されていたけれど、一つだけそれぞれ違うところがあった。それは、家々の色だった。たとえ同じ設計で作られた家であっても、それぞれの色が違えば、印象はだいぶ変わってくると思う。だから、



の他に、住宅それぞれに色を変えた壁や屋根をとりつけられれば、もっと生活に潤いが生まれていいと思う。生活に潤いが生まれれば、被災地の人々の気持ちも、もっとほがらかになれるんじゃないだろうか、と思う。

日常にも心にも
“色どり”を!